

令和 4 年度第 2 回京都市環境影響評価審査会 委員からの追加意見

【東野会長追加意見】

事業が具体化していない部分があり、アセスの方法も十分に詳細な指摘が難しい状況ですが、方法書（あるいは準備書）で明らかにできない廃棄物や温室効果ガス発生量、地下水調査、影響予測方法などの調査や予測（行政への書類提出も）の一覧を作成し、表 1. 2－3 の事業スケジュールの進行状況に対応した、その実施時期（幅をもたして）を示すことはできないでしょうか。いつ準備書や評価書への記載が行われるのかどうか、このままでは曖昧です。

【山田委員追加意見】

京都プロジェクト（仮称）では、掘削することにより大量の発生土が生じます。この発生量、処分の方法などで環境への影響が大きいと考えられます。

前回の審査会で質問しましたが、施工業者が決まれば適切に処分するように指導するとのことで、環境影響を評価できるような具体的な案は提示されませんでした。

今回のプロジェクトでは大量の発生土が出てくると予想され、それがきちんと処分あるいは有効利用されないと環境への影響は大きいと推測されます。答申案では廃棄物とは別に発生土と明記された方がよいと考えます。